

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1475201107
法人名	特定非営利活動法人 のぞみ
事業所名	のぞみの家 宮内
訪問調査日	平成23年2月10日
評価確定日	平成23年3月25日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1475201107	事業の開始年月日	平成17年5月1日	
		指定年月日	平成17年5月1日	
法人名	特定非営利活動法人 のぞみ			
事業所名	のぞみの家 宮内			
所在地	(210-0051) 神奈川県川崎市中原区宮内3-10-3			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	通い定員	名	
定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
自己評価作成日	平成23年2月1日	評価結果 市町村受理日	平成23年4月12日	
			ユニット数	2 ユニット

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご入居者様の健康と楽しく美味しい食事の提供を目指し法人の提携する食材会社からの食材購入で、管理栄養士によるメニューを職員とご入居者様の手伝いで調理され味とカロリー管理にこだわりをもって日々の食事提供を行っています。
 ・訪問診療医の協力により24時間対応で適正な医療支援を行っています。
 ・ご入居者様の日々の散歩での外出時に、地域の方々に進んで挨拶をして馴染みながら交流に努め、地域と繋がりを持っています。
 ・ホームは行き届いた掃除でチリ、ホコリ、や異音、異臭も無く、明るい環境で寛げるホーム作りがされている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成23年2月10日	評価機関 評価決定日	平成23年3月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

・グループホームのぞみの家宮内は、横浜市、川崎市、藤沢市にグループホーム5事業所と訪問介護事業所を運営している特定非営利活動法人のぞみの中の一つで、JR武蔵中原駅から徒歩15分の地の利で、近くには公園や漫画神社等があり、少し足を伸ばせば等々力緑地と多摩川がある、緑と自然に囲まれた街中に位置している。
 ・のぞみの家では理念に「この家の主人は入居者本人であると考えています。この主人である入居者の自立支援をしながら、穏やかで安らぎのある暮らし、仲間との楽しい語りのある暮らし、生きている事の楽しさを味わえる暮らし、を入居者と共に作り上げて行きます」と謳い、理念に沿って職員は、入居者を人生の先輩と敬い、笑顔を決やさない支援が行われている。
 ・ホームでは自治会に加入して、地域の祭りや盆踊りなど職員と一緒に参加し、日頃の散歩や買い物を通し、地域の方々とは挨拶交わし、優しく受け止めて頂きながら地域と交流を深めている。
 ・入居者の健康と、楽しく美味しい食事提供を目指し、メニューは管理栄養士が作成し、調理に味とカロリーに拘りを持って提供に努め、利用者には、餃子の包み、もやしのひげとり等や下膳など、手伝える方は行なって頂き、一人ひとりのペースに合わせた支援を行ない、会話を楽しみながら日々の食事支援が行われている。正月、敬老の日、クリスマス等には特別食で支援がされている。
 ・看取りについて家族・医療機関・介護スタッフの協力で、本人の意思を最大限尊重して支援するとし、実施に際し方針を具体的に定め、職員も共有認識して取り組んでいる。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	のぞみの家宮内
ユニット名	あじさい

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	のぞみの家の理念を廊下にかかげ共有している。	理念は“のぞみの家の職員はこの家の主人は入居者本人であると考えています。この主人である入居者の自立支援をしながら穏やかで安らぎのある暮らし、仲間との楽しい語りのある暮らし、生きている事の楽しさを味わえる暮らし、を入居者と共に作り上げて行きます”と謳って廊下に掲げ、研修や連絡会などで話題にし全職員で理解共有の上、最適なケア支援ができるよう取り組んでいる。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、地域の祭りなどの行事の折り寄っていただいたり、近隣への散歩時は地域の人と挨拶を交わすなど交流をはかっている。	ホームとして自治会に加入している。地域の祭りや盆踊りなどの案内が届けられ、職員と一緒に参加して地域とつながりを持っている。更に日頃の散歩や買い物での外出時には、地域の方々に、こちらから進んで挨拶をして、優しく受け止めて頂きながら地域と馴染みながら交流が行われている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議へ地域の民生委員の方々の出席があり、間接的に支援に努めている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、老人クラブ会長、民生委員、特別養護老人ホーム施設長、大家さん等地域に根ざしている人に参加していただき、報告、評価を通じて向上へと結び付けている。	推進会議は2ヶ月に1回、町内会長、民生委員、特別養護老人ホーム施設長、ホームの大屋さん、包括支援センター職員、利用者家族代表、スタッフ、管理者等の出席の下に開催している。会議では事業所の入居状況及び活動状況の報告に加え、事業所の催事計画と防災訓練予定と取り組み等を報告説明し、参加者から質問、気付き、アドバイスを頂き、結果を議事録として出席者並びに参加できなかった職員にも報告し運営上に反映している。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点不明点など分からないことは市町村の介護保険課に連絡相談し、連携に努めている。	県のグループホーム連絡協議会に加入し会議に出席している。会員が集まり、より良い連携について意見交換をし、更には市役所から情報を収集し、研修情報等も得て職員が参加している。疑問点不明な点解らないこと等、種々連絡は介護保険課と連絡相談をし交流が行われている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に行動制限について現況の点検を行っている。	契約書6条3項に拘束は行わないと謳って研修も行われていて、職員全員が拘束、虐待の禁止行為の内容とデメリットについて認識し、定期的に現状の点検を行なっている。玄関の施錠は見守りと寄り添いで対応する事で施錠はしていない。但し、万全を期す意味からリビング入りロドアーには開きを知らせるセンサーが取り付けられている。また夜間は防犯上、家族の了解を得て施錠をしている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どういものが虐待にあたるのかなどの確認や、入居者の立場に立ち考えるなどの勉強会を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会に参加し学ぶ機会を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明をし、理解を得てからサインをもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議の場に参加いただきご意見をうかがうなどし、食事メニューを見やすいものにするなどすぐに要望に対応している。相談員制度も利用し外部への開く機会も設けている。	苦情及び意見、要望、の相談について重要事項説明11条及び運営規定13条に述べられる事を明記し、家族には契約時に説明している。また運営推進会議や家族会への出席を呼びかけ、そこで意見要望が述べられる機会を設け、更には家族の来所時に管理者または職員による面接で近況報告と共に家族から意見、要望を聴くようにしている。聴取した要望意見はカンファレンスで検討の上、運営に反映させ、結果は家族に報告している。又相談員制度も受けいれている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスを開き、管理者職員共に話し合いの機会を設けている。管理者による職員との個別面談も随時行い、意見を反映させている。	月に1度の全体ミーティング等を通じて職員と管理者が話し合いで意見を出してもらい反映できるよう努めている。加えて、管理者と職員の間は随時行われている面談を通じて何事でも気軽に話し合える関係が築かれていて、意見要望などを聴いて運営に反映するよう努めている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自がやりがいを持って働けるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社会福祉協議会、他の研修に参加を促している。感染症対策の研修会へ積極的に出席するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他のグループホームとの勉強会を定期的に行ったり運営推進委員会に参加するなどし、交流を深め向上に努めている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望を聴き、安心して暮らせるようプランをたてケアにつなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望に耳を傾け関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族とよく話し合うことで必要なサービスを見極め、提供できるよう努めている。入居前には自宅や入院先などの訪問を行い、生活環境の把握も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など出来ることを行っていたきながら、共に食事し共に楽しみ、生活を支えあう関係をつくっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に随時現状を報告しご本人の状態を理解していただき、共に出来ることを考えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の同意を得た上で友人等の面会も受け入れ理容室等なじみの店の利用を勧めている。	これまでの本人とかかわりの場所や人間関係の把握は、日ごろの会話や家族からの情報等で把握している。これまでの関わりを維持する為、手紙や電話の取次ぎに加え、知人の来所面接など本人、家族の同意の上、支援している。思い出の場所として馴染みの理容室の利用など薦め、個々の思いに添えるようにしている。事例として家族の協力の下で、お墓参りや以前の住居の訪れ等が実施されている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を理解し、職員が間に入り団らんのを設けるよう努めている。			
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院・入所先への面会を通し相談や支援に努めている。			
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人やご家族からの話を聞き、意向の把握に努めている。	意思表示が出来る入居者には日頃の会話を通じて直接聴いて意向の把握を行っている。しかし、意思表示が難しい入居者には寄り添いで、表情や行動から汲み取るようにし、又、家族からの情報と生活暦で、一人ひとりの思いや意向を確認し、外出なども本人本位を前提に対応している。		今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族への聴き取りにより把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人、家族への聴き取りや生活の観察により状態の把握に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、医師との連携を行い、職員で検討しながら介護計画を作成し、毎月評価を行っている。	介護計画の見直しは基本的には6ヶ月サイクルで見直し検討が行われている。但し、状態に変化が見られる場合は、随時見直しを行っている。一人ひとりに適した具体的内容とする為、カンファレンスで日常生活の記録のアセスメントの確認に加え職員個々の体験や経過観測結果に基づき意見を述べあつて、家族や計画作成担当者との話し合で、残存する能力の可能性を加味した介護計画を立案している。またモニタリングの結果に基づき毎月評価判定を行っている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録への記入や申し送り、カンファレンスにより情報を共有し計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じて話し合いプランを変更し、柔軟なサービスに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くに等々力公園があり散歩やランチに出かけている。 公民館も隣接している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時希望をお聞きし、希望の方にはメディカルサポーターからの説明後訪問診療医との契約をしていただく。治療や薬の変更時にはホームを通じ随時家族へ連絡している。	受診については本人家族の意見を尊重し、希望の医療機関を決めていただいている。現在入居前のかかりつけ医の継続受診者は3名居り、家族を通じて受診結果など必要情報を共有している。訪問診療は15名にて適切な医療支援が行われている。家族の希望により通院介助の支援を行う事もある。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化に気づいた時には職場内の看護師、訪問診療の看護師に随時相談、その後の報告をしている。 両者とも24時間対応である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職場内の看護師が病院を訪問し情報交換を行い、早期に退院できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と話し合い十分に説明している。 ケアスタッフへカンファレンスで話をしチームでケアをしている。	看取りについて、終の棲家として機能を果たせるよう適切な対応をするとして、家族・医療機関・介護スタッフの協力で本人の意思を最大限考慮して支援するとしている。看取りの実施に当たり方針を具体的に定めている。先ず契約時に看取りについて説明をして、状況に応じて家族及び主治医、看護師、介護スタッフとの連携で、繰り返し検討を行いながら決定するとしていて、ホームの職員も共有認識している。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応について目につく所に貼り出している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。	さまざまな災害を想定し、ホームでは災害時通報連絡網の整備に加えて定期的に年2回の避難訓練を実施して所轄消防署に報告書を提出している。又、マニュアルに沿った研修も行い、初期消火活動に加え避難誘導や広域避難場所の説明と災害時の行動手順などの確認を行っている。運営推進会議を通して緊急時の協力を依頼している。設備としてスプリンクラーに加え自動直接通報装置の設置がある。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声かけ、対応をしている。	入社時のオリエンテーションでホーム方針として入居者の意思及び人格を尊重し支援をする事を説明して、日々の会話やサービス提供を通じて全職員が理解共有している。実際の介護の場面に於いても、利用者の人格を尊重した話しかけと呼びかけで支援を行い、他に気づかれない心遣いのさり気ないトイレ誘導が行われている事が調査時の来訪で確認できた。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩やレク参加なども押し付けではなく、本人の気持ちを尊重するよう働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者優先に支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に合わせて更衣、整容の手助けをしている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理やお茶の準備、配膳食器拭き等利用者の方々と協力して行っている。また、メニューを見やすいところに張り出すなど、食事の確認も出来るようにしている。	調理時の下ごしらえで餃子の包み、もやしのひげとりに加え、お茶の準備や配膳、食器ふき等、手伝える人にやってもらっている。好みや リクエストは日常的に話している中で把握して外食などを実施して要望に応じている。又食事では刻み食、流動食など、一人ひとりの健康状況に合わせた食事提供をして、その人のペースに合わせて職員との会話を楽しみながら食事支援が行われていることを調査時の食事同席で確認できた。正月、敬老の日、クリスマス等には特別食で支援がされている。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士作成の献立にそって料理し、個々に合わせ食事形態を変えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後見守り、介助にて口腔ケアを行っている。また口腔の状態に応じて訪問歯科と連携し、健康と清潔が保てるように援助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を使い排泄時間を見極め、トイレ誘導をしている。おむつから布のパンツまでレベルアップした例もある。	「排泄チェック表」により一人ひとりの排泄パターンを全職員で把握し、時間を見計らったトイレ誘導で適切な支援を行っている。出来るだけ自力で排泄を試みる事でオムツの使用量を減らす工夫と寝たきりにしないという理由でもトイレでの排泄の自立支援が行われている。支援において、オムツから布パンツまでレベルアップした実例をもつ。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつや飲み物の工夫、散歩や体操など便秘予防に努めている。個々の状態も把握している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日を週3回設定しており、本人の意向を尊重している。	入浴は楽しみの他、清潔保持と身体観察、体調変化の把握などの効用があると考えている。バイタルチェックと共に無理強いることなく本人の意向を確認しながら一人ひとりの希望に合わせて、週3回の入浴を、タイミングを見計らって支援を行なっている。いやがる人には、再度の声かけ等で入浴を促している。季節には菖蒲湯や柚子湯などを楽しめるように工夫をしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調に合わせて休息の時間を設けている。就寝時間も本人の希望に沿っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルし、職員が誰でも見られるようにしている。追加や減量時は職員に伝達し、症状の変化を観察、必要時医療に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援内容を本人に合ったものにしていく。(手仕事、歌、散歩、買い物など)		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的買い物に行く人、毎日散歩を希望する人などその方に合った外出を行っている。また外食やドライブなども随時行っている。	散歩を日課として楽しみにしている方もいる反面、車椅子使用の為断る方や、あまり出たがらない方もいるが、日々の関わりの中から希望を聞いて誘い、車椅子の方にも支援しながら外出が出来るよう心掛けている。家族とも相談しながらドライブと称して車椅子の方の対応も兼ね「花見」や「外食」少し遠出の外出なども計画して支援を行なっている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある方と買い物に行き、自分で支払いをするのを見守り、付き添いをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時には連絡できるようにしている。ボランティアとの手紙の交流を行ったこともある。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感の味わえる飾りつけをしている。	玄関、階段、トイレ、風呂、全てに掃除が行き届き清潔で異音、異臭なども無く、キッチン続きの食堂兼居間は採光も良く、空調管理も施され、リビングにはソファが設置され、入居者が思い思いに過ごせる様になっている。四季折々の入居者が作った作品に加え暮らしがわかるスナップ写真も貼られ、家族の来訪時には話題作りとして利用されるなど、くつろげる空間作りがされている。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き会話を楽しめる場を作っている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはできるだけ普段使い慣れた家具をそろえていただいている。	入居者各人の部屋には、使い慣れた思い出の品が持ち込まれていて、一人ひとりの思いの設えで生活拠点が作られている。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険の無いように環境整備に努めている。			

事業所名	のぞみの家宮内
ユニット名	こすもす

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	のぞみの家の理念を廊下にかかげ共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、地域の祭りなどの行事の折り寄っていただいたり、近隣への散歩時は地域の人と挨拶を交わすなど交流をはかっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議へ地域の民生委員の方々の出席があり、間接的に支援に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、老人クラブ会長、民生委員、特別養護老人ホーム施設長、大家さん等地域に根ざしている人に参加していただき、報告、評価を通じて向上へと結び付けている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点不明点など分からないことは市町村の介護保険課に連絡相談し、連携に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に行動制限について現況の点検を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どういものが虐待にあたるのかなどの確認や、入居者の立場に立ち考えるなどの勉強会を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会に参加し学ぶ機会を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明をし、理解を得てからサインをもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議の場に参加いただきご意見をうかがうなどし、食事メニューを見やすいものにするなどすぐに要望に対応している。相談員制度も利用し外部への開く機会も設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスを開き、管理者職員共に話し合いの機会を設けている。管理者による職員との個別面談も随時行い、意見を反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自がやりがいを持って働けるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社会福祉協議会、他の研修に参加を促している。感染症対策の研修会へ積極的に出席するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他のグループホームとの勉強会を定期的に行ったり運営推進委員会に参加するなどし、交流を深め向上に努めている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望を聴き、安心して暮らせるようプランをたてケアにつなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望に耳を傾け関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族とよく話し合うことで必要なサービスを見極め、提供できるよう努めている。入居前には自宅や入院先などの訪問を行い、生活環境の把握も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など出来ることを行っていたきながら、共に食事し共に楽しみ、生活を支えあう関係をつくっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に随時現状を報告しご本人の状態を理解していただき、共に出来ることを考えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の同意を得た上で友人等の面会も受け入れられている。 理容室等なじみの店の利用を勧めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を理解し、職員が間に入り団らんのを設けるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院・入所先への面会を通し相談や支援に努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人やご家族からの話を聞き、意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族への聴き取りにより把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人、家族への聴き取りや生活の観察により状態の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、医師との連携を行い、職員で検討しながら介護計画を作成し、毎月評価を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録への記入や申し送り、カンファレンスにより情報を共有し計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じて話し合いプランを変更し、柔軟なサービスに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くに等々力公園があり散歩やランチに出かけている。 公民館も隣接している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時希望をお聞きし、希望の方にはメディカルサポーターからの説明後訪問診療医との契約をしていただく。治療や薬の変更時にはホームを通じ随時家族へ連絡している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化に気づいた時には職場内の看護師、訪問診療の看護師に随時相談、その後の報告をしている。 両者とも24時間対応である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職場内の看護師が病院を訪問し情報交換を行い、早期に退院できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と話し合い十分に説明している。 ケアスタッフへカンファレンスで話をしチームでケアをしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応について目につく所に貼り出している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声かけ、対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩やレク参加なども押し付けではなく、本人の気持ちを尊重するよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者優先に支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に合わせて更衣、整容の手助けをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理やお茶の準備、配膳食器拭き等利用者の方々と協力して行っている。また、メニューを見やすいところに張り出すなど、食事の確認も出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士作成の献立にそって料理し、個々に合わせ食事形態を変えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後見守り、介助にて口腔ケアを行っている。また口腔の状態に応じて訪問歯科と連携し、健康と清潔が保てるように援助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を使い排泄時間を見極め、トイレ誘導をしている。おむつから布のパンツまでレベルアップした例もある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつや飲み物の工夫、散歩や体操など便秘予防に努めている。個々の状態も把握している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日を週3回設定しており、本人の意向を尊重している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調に合わせて休息の時間を設けている。就寝時間も本人の希望に沿っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルし、職員が誰でも見られるようにしている。追加や減量時は職員に伝達し、症状の変化を観察、必要時医療に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援内容を本人に合ったものになっている。(手仕事、歌、散歩、買い物など)		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的買い物に行く人、毎日散歩を希望する人などその肩に応じた外出を行っている。また外食やドライブなども随時行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある方と買い物に行き、自分で支払いをするの見守り、付き添いをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時には連絡できるようにしている。ボランティアとの手紙の交流を行ったこともある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感の味わえる飾りつけをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き会話を楽しめる場を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはできるだけ普段使い慣れた家具をそろえていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険の無いように環境整備に努めている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

のぞみの家 宮内

作成日

平成23年2月10日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	5, 7	職員の質の向上をはかるための勉強会が定例化していない。	毎月のカンファレンス時に勉強会を開く。	毎月の課題を二人一組でこなし、カンファレンス時に発表、意見交換をする。	今月より6ヶ月
2	64	入居者の地域との交流の機会が少ない。	地域の催しなどに参加したり、来ていただいたりする。	運営推進委員会などでの情報の収集。	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。